

生協ならではの強みを生かした「炊き出し」で被災地を支援

パルシステム連合会

東日本大震災の被災地では全国からのさまざまな支援が行なわれているが、パルシステム連合会も会員生協や関連会社と協力して炊き出しを中心とした活動を行なっている。3月より交互に被災地へ赴く鈴木茂敏さんと渡邊たかしさん、そして帰省中に実家で被災した高橋道子さんに、これまでの支援状況と今後についてお聞きした。



生協だからこそできる「食」での支援活動

パルシステム連合会と会員生協、関連会社を含めたパルシステムグループ（以下パルシステム）は、宮城県の生協あいコープみやぎと共に、宮城県石巻市ではほぼ毎週炊き出しを行なっている。

メニューはカレーライスや豚汁、シチューなど。基本的な行程は、首都圏を火曜日に出発して、水・木曜日に炊き出しを行ない、金曜日に帰ってくるというスケジュールだ。3月末～6月末までの3カ月間で12週間も炊き出しを続けている。

パルシステムの職員として最初に被災地を訪れたのは、パルシステム連合会・セカンドリーグ支援室室長の鈴木茂敏さんだ。

「3月なのでとても寒くて、温かい食べ物が必要だと感じました。私たちは生協ですから『食』で貢献することが最も適切ではないかと考えたのです」

鈴木さんは、炊き出しを決めた理由をそう説明する。

食材や防災鍋、ガスコンロ、プロパンガ



パルシステム連合会
企画本部 セカンドリーグ支援室
室長 鈴木茂敏さん

スなどはすべてパルシステムが用意した。連合会は食材の手配や現地でのコーディネート、会員生協と関連会社は現地入りするスタッフおよびトラックを提供している。

当初はカレーライスで1日300食がやっとだったが、今は600食と倍増し、2日間で1,200食以上が供給可能となった。石巻市内で必要な食数は、1日3,500～4,000食なので（6月末現在）、全体の2割弱を占める。パルシステムの炊き出し支援は大きな力となっている。

NGO、NPOとの協議に基づいて活動

最初から事がうまく運んだわけではない。石巻市を最初に訪れた3月末、良さそうな場所を選んで食事を作っていたら「その場所は後から来る団体が決まっているからダメだよ」と言われたのだ。

「炊き出しは勝手にやっちゃいけないのか？」と疑問を持った鈴木さんは、パルシステム神奈川ゆめコープ・常務理事運営

本部長の渡邊たかしさんと4月6～8日現地に入り、支援のための調査をした。「宮城県の沿岸地域を北上してボランティアセンターを回りました。何が足りないか、どういう支援が必要かをあらためて聞いたのです」（渡邊さん）

再び石巻市を訪れたところ、NGOとNPOを中心に運営されている石巻災害復興支援協議会（以下、協議会）の存



わたのは
石巻市渡波駅前での炊き出し風景。被災地では多くの人たちが毎日自宅の掃除や修復にかかりきりで、食事を作るのは大変な作業。少しでも日常生活の負担を減らしたいと、炊き出しを始めた。

在を知る。事務局がある石巻専修大学に顔を出し、協議会が炊き出しのコーディネートもこなしていることを確認。あいこープみやぎと協議会に参加し、石巻市を拠点に炊き出し支援を行なっていくことを決めた。

「私たちには『地域に入って支援したい』という思いがあり、石巻市にはその仕組みがあつたのです」と渡邊さんは振り返る。鈴江さんも「自衛隊が遺体捜索やがれきの撤去といった大きな役割を担い、行政は全体を統括。ボランティアセンターがコーディネートをして、ボランティアは細かなニーズに応えるためのアナログな作



石巻災害復興支援協議会への加盟を示すステッカー。

1回』ではなく『300食×2回』にするなど、臨機応変に対応しているのです」と鈴江さんはNGO、NP



パルシステム神奈川ゆめコープ
常務理事 運営本部長
渡邊たかしさん

業を進めていく。バランスが取れた仕組みです」と語る。

提供可能な食数を前日に協議会へ伝えておけば、炊き出しの場所を地図に落とし込んでくれる。炊き出しは軌道に乗った。

協議会では毎日夜7時から会議が開かれ、ニーズの変化などの情報共有がなされている。「ある場所で炊き出しに集まる人数が減ったとします。その情報がすぐに伝えられ、『600食×

Oとの連携の重要性を強調する。

「団体による炊き出しだけで足りないときは、協議会が担当を調理します。私たちはそれにも協力していて、不足しがちな野菜と肉を週に1度4トトラックで送り込んでいます」と渡邊さんは明かす。

地元生協との連携で 生まれれた被災地との絆

炊き出しのためにパルシステムからは毎週8〜12人が訪れ、あいこープみやぎの会議室で寝泊まりしている。同じ釜の飯を食う仲間として、絆は強まっているという。

「ゴールデンウィークはボランティアが集まるため、被災地に向かう道は大渋滞が予想されていました。すると石巻市の配送担当者が私たちのために仙台から石巻までの詳細な裏道マップを作ってくれたのです」と鈴江さんは語る。

また、あいこープみやぎの理事や組合員が炊き出しに同行するため、その縁から新たな関係も生まれている。渡邊さんは「理事や組合員の知り合いから、今は何が足りないかという情報を得ることができ、協議会とは別のつながりができています」と言う。

石巻市に隣接する女川町に物資を届けているほか、高校での昼食の提供にも取り組んでいる。「避難所から高校へ通う生徒はお弁当を持っていくことができます。そこで私たちが全生徒分の昼食



石巻市を走るパルシステムのトラック。



石巻災害復興支援協議会の様子。ピースポート、日本財団、日本青年会議所などのNPO、NGOのほか、個人やグループなど参加団体は増え続けている。

を用意する試みも行なっています」と鈴江さん。炊き出しが縁となり、「地域に入って支援したい」というパルシステムの願いは徐々に形になっている。

有事に最も大切なのは 地域のコミュニティ

今回の東日本大震災を通して、生協が今後に生かすべき教訓とは何だろうか。

鈴江さんは「隣近所の人と力を合わせて何かに取り組むような関係性を、平日頃からつくっておくことが大事だと思います」とコミュニティの強化をまず挙げる。

仙台市宮城野区の実家へ帰省中に被災し、実家が出出してしまったセカンドリーグ支援室の高橋さんは、「助かったのは隣家の人のおかげ」と言う。「警報は出ていましたが津波は大したことないだろうと思っていたら、隣家の人が『小学校の屋上には上がらないと助かりませんよ』と教えてくれたのです。すぐに小学校に避難したところ、津波は2階まで押し寄せました……。もし声を掛けてもらえなかったら、私たち家族は助からなかったでしょう」



パルシステム連合会
企画本部 セカンドリーグ支援室
高橋道子さん



震災直後のいわき市でも物資を提供した。

コミュニティ、そしてネットワークづくりは、元来より生協の使命の一つ。店舗でも宅配でも、現場の職員にできることはたくさんありそうだ。

また、地域を越えた助け合いとして、パルシステムは組合員に被災地への継続的な支援も呼び掛けている。渡邊さんは「被災者支援のカンパをお願いしたところ、延べ25万人から4億円を超える金額が集まりました。また、震災発生直後にタオルや使い捨てカイロ、せつけん、下着の寄付を呼び掛けたらものすごい量が集まりました。意識の高い組合員の力を、ぜひ生かしたいのです」と語る。

セカンドリーグ支援室は5月24日、被災地支援に直接携わった人を招いてトークイベントを開催（コラム参照）。さっそく後方支援を行なうグループが結成された。「被災地に行つて何かしたい」と考える

できることを見つけよう！ 被災地応援のイベント開催

パルシステム連合会・セカンドリーグ支援室は、被災地応援につながるイベントを企画・実施している。

5月24日（火）には「今、私にできることを見つけよう！ やってみる・伝える・続ける!!」を開催。被災地支援に直接携わった赤城智美さん（NPO法人アトピッズ地球の子ネットワーク 事務局長／専務理事・9月号「特集」で詳報）と本間春夫さん（株式会社ナカショク 代表取締役）をゲストとして招き、セカンドリーグ支援室の鈴江室長をナビゲーターとして被災地の現状と支援策について聞いた。

60人を超える来場者は、グループに分かれて意見交換。自分で継続的にできる被災地支援について考えていた。また、6月28日（火）には避難所の人たちのために役立つ

ことを目的に「ハンドセラピー講習会」を実施しており、今後も定期的に勉強会やサロンを開催する予定である。



被災地支援に取り組む市民団体なども参加した。



福島県いわき市での給食支援。4月11日から3週間にわたり、パンや牛乳、乳製品、魚肉ソーセージなど延べ9,750食を小・中学校4校に提供した。

人はたくさんいますが、被災地に行かなくても支援はできます。何ができるかを考えてもらおうきっかけにしたかったので

「と高橋さんはイベントの開催意図を明かす。6月28日には、関東の避難所でハンドセラピーのボランティアに励むセラピストの講習会も実施した。

高橋さんは「私は被災者として『震災があったこと、被災している人がいることを忘れないで欲しい』という思いを持っています。私たちが被災地の情報を伝えることで、組合員さんたちの草の根の運動を支援したいのです」と語る。

復興までは息の長い取り組みが必要となる。パルシステムでは炊き出し以外の支援策も含めて検討中だが、高橋さんの「忘れずに続けてほしい」という言葉は、今後の支援のあり方を考える上で重要な示唆となるだろう。

（文 前川太郎）

※ 手で他人の身体をなでたりさすったりすることで心身を癒すセラピー。